平成25年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

第29回

小さな展覧会

コーナー展示 中世京都のおもてなし

平成26年 8月16日(土)～9月7日(日)

主催 公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

協賛 向日市文化資料館　　後援 京都府教育委員会

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER

展覧会開催にあたって

「小さな展覧会」は、毎年、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、府民をはじめ多くの方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことを目的として開催しています。

平成25年度に当調査研究センターおよび関係各機関が実施した発掘調査、整理作業では縄文時代から近世におよぶさまざまな時代の成果がありました。今回は最も件数が多かった中世に注目し、「中世京都のおもてなし」と題して、地域色豊かな土器や陶磁器などを写真パネルとともに展示して、中世京都の人々の暮らしぶりをご紹介します。

展示にあたっては、よりわかりやすく、親しみやすいものとなるように心がけましたのでお楽しみいただけることを願っています。

今回の展覧会に協賛をいただいた向日市文化資料館をはじめ、ご後援をいただいた京都府教育委員会、様々なご協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝いたします。

平成26年８月

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長　上　田　正　昭

凡 例

1．本書は、「第29回小さな展覧会～平成25年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～」（平成26年８月16日～９月７日に開催）の展示図録です。

2．展示資料は、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として平成25年度に発掘調査および整理作業を行った遺跡・遺物を対象としました。

3．展覧会期間中の８月23日（土）に第128回埋蔵文化財セミナーを開催します。

4．資料調査・図録作成・展示・資料および写真借用にあたっては次の機関からご協力をいただきました。
（順不同・敬称略）　綾部市教育委員会・亀岡市教育委員会・公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市文化資料館・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・宇治市歴史まちづくり推進課・八幡市教育委員会・井手町教育委員会・京田辺市教育委員会・木津川市教育委員会・京都府教育委員会・京都府京都文化博物館

5．裏表紙の展示遺跡位置図には、本書で解説していない展示遺跡を含んでいます。

6．本図録は、京都府立山城郷土資料館の協力を得て作成しました。

（表紙写真　中世土器：門田遺跡、家形埴輪：御毛通２号墳、石棺３Ｄ画像：女谷・荒坂横穴群）

丹後の遺跡

石田谷遺跡（いしだだに）　与謝郡与謝野町字弓木　　当調査研究センター調査

石田谷遺跡は、野田川左岸の丘陵斜面に位置する集落跡です。

今回の調査により、弥生時代から鎌倉時代の長期間にわたり断続的に集落が営まれていたことがわかりました。

弥生時代後期の竪穴住居内から鉄器（ヤリガンナ）が出土しました。この時期の住居から鉄器が出土することは珍しく、京都府内では５例目となりました。墳墓から鉄製品が出土することが多い丹後の地域性を示しています。また、北に隣接する谷部から多量の土器が出土しました。

弥生時代後期の竪穴住居の発見と出土した数多くの土器は、この集落跡でどのような生活が営まれていたかを探る手がかりになります。

弥生時代後期の竪穴住居（上）と土器（下）

大川遺跡（おおかわ）　舞鶴市字大川地先　　当調査研究センター調査

大川遺跡は由良川（ゆらがわ）左岸に広がる縄文時代から室町時代の集落跡です。

今回の調査では、平安時代後期から室町時代の井戸や建物、鍛冶炉（かじろ）などが見つかりました。また、当時使われていた土器や陶磁器の破片が多量に出土しました。出土した陶磁器の中には中国製のほか、朝鮮半島からもたらされた高麗青磁（こうらいせいじ）があります。丹後では高麗青磁の出土は宮津市中野（なかの）遺跡に次いで２例目です。近年島根県沖手遺跡など日本海沿岸で朝鮮半島製の陶磁器がまとまって出土しており、今回の資料は当時の日本海側の物流を考える上で重要です。

由良川と発掘調査中の大川遺跡（北西から）

青野南遺跡（あおのみなみ） 綾部市青野町亀無

綾部市教育委員会調査

調査地全景（北から）

青野南遺跡は、由良川中流域の古墳時代から中世にかけての遺跡で、特に飛鳥時代の大型建物群については、何鹿郡衙（いかるがぐんが）（古代の郡の役所）関連の遺構として評価されています。

今回の調査で注目されるのは奈良・平安時代の大型建物と平安時代から鎌倉時代の建物です。奈良・平安時代の建物の柱穴からは鍛冶炉（かじろ）の送風管や鉄滓（てっさい）が出土しており、付近に鍛冶関連施設があったことを示しています。調査地は遺跡の北西部に位置しており、郡衙の周辺域における生産施設のあり方を考える貴重な資料といえるでしょう。

また、今回新たに平安時代から鎌倉時代の建物が見つかったことにより、中世以降の青野南遺跡の様相が明らかになりつつあります。

余部遺跡（あまるべ） 亀岡市余部町大塚

亀岡市教育委員会調査

第 13 次調査で見つかった竪穴住居（南西から）

余部遺跡は、亀岡盆地を流れる大堰川（おおいがわ）右岸地域における弥生時代中期の中心的な集落跡の一つとして知られています。

今回の調査では、弥生時代と鎌倉時代の遺構が見つかりました。

弥生時代については後期の竪穴住居が２基見つかりました。そのうちの１つは一辺８ｍの大型住居です。これまでに見つかっている同時期の住居に比べて規模が大きく、それらの住居から離れた場所にあることから、首長（しゅちょう）クラスの住居であった可能性が考えられます。鎌倉時代については、建物跡や鍛冶（かじ）関係の遺物など初めて良好な遺構や遺物が確認されたことから、当時の余部の集落の様相を解明する上で重要な発見となりました。

出雲遺跡は大堰川左岸の沖積平野を望む河岸段丘上に広がる集落跡です。

今回の調査では、弥生時代後期と古墳時代中期、さらに平安時代の建物や土坑、溝などが見つかり、広く周囲が見渡せる丘陵斜面に各時代の集落が営まれたことがわかりました。

集落や有力者の館を囲んでいたと考えられる溝（北から）

特に注目される遺構は、平安時代末期の溝です。南北に直線的に掘削された幅3.5 m、深さ 0.4 mの溝で、23 m分を確認しました。溝からは、多量の遺物が出土し、これらの中には、南丹波地域ではあまり出土例がない青白磁の合子や皿が含まれます。また、一般集落跡では出土例の少ない白磁椀、青磁皿などが多く出土しました。こうしたことから、周辺に有力者の館が存在していた可能性があり、溝は館を区画する施設の一部である可能性があります。

展示品アラカルト

懸垂鏡
（亀岡市余部遺跡）

家形埴輪
（八幡市御毛通２号墳）

石棺の蓋石（部分）
（八幡市女谷・荒坂横穴群）

銅製のおもり
（舞鶴市大川遺跡）

高麗の象嵌青磁
（舞鶴市大川遺跡）

青白磁の合子と皿の破片
（亀岡市出雲遺跡）

山城の遺跡

上植野城跡（かみうえの）　向日市上植野町北小路

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター調査

調査地全景（西から）

上植野城跡は、向日丘陵の東斜面に立地する、上野秋田（うえのあきた）氏が営んだと伝わる城跡です。

今回の調査では、戦国時代の城に関連する防御施設や生産施設が見つかりました。防御施設には堀や虎口（こぐち）があります。堀は幅 2.2m、深さ 2.0m の大きなものです。埋土から出土した土器から戦国時代前期に埋められたと考えられます。堀の東側には土塁（どるい）があったと想定され、城内から堀に排水するための石組みの暗渠（あんきょ）も見つかりました。また、炉跡や金属製品の生産を行っていた土坑なども見つかっており、鉄釘、青銅製金具類が出土しています。出土した土器とともに城内での生活の一端をうかがうことができます。

堀と虎口（北から）

五塚原古墳（いつかはら）　向日市寺戸町芝山

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター調査

東くびれ部全景（東から）

五塚原古墳は、古墳時代前期（３～４世紀）に向日丘陵上に造られた乙訓地域の大規模な古墳の１つです。全長 91.2 m の前方後円墳で府内で最も古い古墳の１つです。

今回は古墳の東くびれ部を調査し、葺石のほか、墳丘の基底平坦面で礫敷（れきじき）を確認しました。礫敷は築造当初に造られた可能性があります。また、前方部から後円部の埋葬施設へ向かうための道が確認されました。

墳丘上での儀式を解明するための大きな成果が得られました。

伊賀寺遺跡（いがじ）　長岡京市友岡西畑・下海印寺伊賀寺　公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター調査

調査地全景（南東から）

伊賀寺遺跡は小泉川左岸の沖積段丘面に所在する、近畿地方における最大級の縄文時代中期から後期の集落跡のひとつです。

今回の調査では縄文時代と飛鳥時代の成果が注目されます。

縄文時代の遺構としては中期末の石囲炉（いしがこいろ）をもつ竪穴住居が見つかり、居住域がこれまでの想定からさらに東の高い地点に広がることが明らかになりました。

飛鳥時代の遺構としてはカマドをもつ竪穴住居と掘立柱建物がまとまって見つかり、集落の範囲がさらに南に広がることが明らかになりました。調査地の南東500ｍには飛鳥時代に創建された鞆岡廃寺（ともおかはいじ）があります。その造営に関わった人々が居住していた集落であったかもしれません。

史跡大山崎瓦窯跡（おおやまざきかわらがま）　乙訓郡大山崎町字大山崎小字永福寺　大山崎町教育委員会調査

新たに見つかった瓦窯：奥の２基（東から）

大山崎瓦窯跡は、港である山崎津（やまざきのつ）近くに営まれた、主として平安宮に瓦を供給するために造られた瓦窯跡です。平安京の造営過程を解明する上で重要な遺跡であることから国史跡に指定されています。

昨年度の調査では、新たに２基の瓦窯が見つかりました。これまでに見つかっていた窯跡群と直交する窯跡群が南西側に展開することが明らかになりました。出土した瓦や窯の構造・配置などは京都市西賀茂（にしがも）瓦窯跡とよく似ており、大山崎瓦窯跡でも西賀茂瓦窯跡と同じ型を使って平安宮の豊楽院の瓦を焼いていたことが明らかになりました。

条里型地割に沿って見つかった島畑（南から）

下水主遺跡は、城陽市南部の木津川右岸の低地に広がる集落・生産遺跡です。

今回の調査では、多数の「島畑」が検出されました。島畑とは地面を一段高く盛り上げて畑としたもので、畑が水田に囲まれて島のようにみえることから名付けられました。

島畑は全国的に水位の低い扇状地・氾濫原※といった場所で造られていたようです。

今回見つかった島畑の基底部の大きさは、幅８～ 15 m、長さ 50 ～ 100 mを測り、耕作面は周囲より 0.6 ～ 0.8 m程度の高さがあったようです。出土した土器から、これらの島畑は 13 世紀前半に造られ、近・現代までその形や位置を踏襲してきたことが分かりました。また、出土した種子から江戸時代には綿が栽培されていたことも分かりました。

島畑の形や向きを現在の水田と重ねてみると、現在の水田区画に対応して一定のまとまりがあることが分かりました。このことから現在の寺田・水主地区にみられる条里型地割と呼ばれる一辺約 109 mの土地区画が 13 世紀に遡るものが存在することが分かりました。

また、島畑造成以前の下水主遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居や平安時代の井戸・掘立柱建物などが見つかっています。これらの集落を営んだ人々は、木津川に近接する低地の中の高まりを選んで住んでいたと考えられます。

弥生時代の竪穴住居（南西から）

平安時代の井戸（南から）

※氾濫原：洪水時に流水が河道などから溢流して氾濫する範囲の平野を指します。

浄妙寺跡　宇治市木幡赤塚　　宇治市調査

浄妙寺は、藤原道長が1005年に藤原氏の菩提を弔うために建てた寺です。これまでに法華三昧堂や多宝塔と考えられる建物、寺域の南限を示す築地などが見つかっています。

今回の調査では門や区画溝、柵列が見つかりました。溝は、幅２～３ｍで南北方向に掘削されており、浄妙寺の西辺を区画する溝と考えられます。溝は５ｍにわたって途切れており、その東側に門跡があります。門跡では１対の柱穴が見つかり、中には礎石が据えられていました。浄妙寺の西門と考えられます。あまり出土例のない青白磁の燈盧台が出土しており、注目されます。

今回の調査成果は、浄妙寺の範囲および当時の姿を考える上で重要であるといえます。

見つかった門と西限の区画溝（西から）

浄妙寺の復元イラスト（早川和子画）

今里遺跡　八幡市下奈良隅田地内　　八幡市教育委員会調査

今里遺跡は八幡市北東部の水田地帯に所在する遺跡です。今回の調査地は遺跡の北東部に位置し、古代から中世の木津川の河原にあたります。調査の結果、土葬土坑、火葬土坑、石組火葬炉、集石遺構、石塔など平安時代後期から近世にいたる多数のお墓を確認しました。副葬品には中国製青磁椀や白磁椀などがあり、石塔も数多く見られることが特徴的です。今里遺跡では、平安時代時代後期には土葬が主体であったのが、室町時代後期にはすべて火葬になります。また、15世紀を中心に１人を１基の土坑で火葬して埋めていたのが、16世紀後半には火葬専用の石組炉を造って、火葬したことがわかりました。土葬から火葬へ、１人ずつの火葬から石組炉による火葬へといった埋葬方法の変遷がわかる貴重な事例といえます。

室町時代の石組火葬炉（南東から）

井手寺跡（いででら） 綴喜郡井手町井手　　井手町教育委員会調査

井手寺跡全景（北上空から）

井手寺跡は木津川右岸の台地上に立地する古代寺院です。奈良時代の前半、聖武天皇の時代に左大臣であった橘諸兄（たちばなのもろえ）が建立したと考えられています。

平成15年度から23年度まで行われた発掘調査により、寺域の範囲が一辺240ｍの大規模な寺院であることがわかってきました。花の文様を刻んだ三彩（さんさい）の飾り瓦（垂木先瓦（たるきさきかわら））が数多く出土していることも注目されます。

三山木遺跡（みやまぎ） 京田辺市三山木柳ヶ町　　京田辺市教育委員会調査

飛鳥時代の倉庫群（北東から）

三山木遺跡は木津川左岸の微高地に広がる弥生時代から中世にかけての集落跡です。これまでに古墳時代の溝や奈良・平安時代の掘立柱建物が見つかっています。遺跡の西側を通る木津八幡線は、古代の主要道である古山陰道（こさんいんどう）とほぼ同じ位置を通っていると考えられており、建物群は山本駅（やまもとのえき）に関する遺構ではないかと考えられています。

今回の調査では、奈良時代から平安時代の２時期の建物群が見つかりました。古い時期の建物群は、主軸が遺跡の西側に推定されている古山陰道とほぼ同じです。中心的な建物と倉庫と考えられる建物があり、倉庫は同じ場所で数回建て替えられています。新しい時期の建物群は建物の主軸がほぼ正方位です。その中でも中心となる建物は南側に庇（ひさし）をもちます。建物の方位が大きく異なることから土地利用が大きく変化したと考えられます。

特別名勝・史跡浄瑠璃寺庭園　木津川市加茂町西小札場　　木津川市教育委員会調査

浄瑠璃寺庭園は、西に本堂、東に塔を配置する浄土庭園で、国の特別名勝･史跡に指定されています。

浄瑠璃寺は永承２（1047）年に小規模な草庵が造られ、その後、仏堂や庭園の整備が進められ、現在の姿になったと考えられています。今回の調査では、国宝木造阿弥陀如来坐像（九体）を安置する本堂の東の調査区で池の州浜遺構を確認しました。州浜遺構は緩やかな傾斜の池岸に直径５～10cm の石を敷き詰め、砂浜の汀を表現したもので、出土した土器から遅くとも 12 世紀中頃に整備されたと考えられます。また、現在の本堂の整地土から出土した土器から､室町時代に編纂された『浄瑠璃寺流記』の記述にある本堂の移設も、12 世紀中頃となる可能性が高くなりました。このように、浄瑠璃寺庭園は平安時代末頃に大規模な整備がなされたことが明らかとなりました。

本堂と検出した州浜遺構（東から）

史跡恭仁宮跡　木津川市加茂町例幣　　京都府教育委員会調査

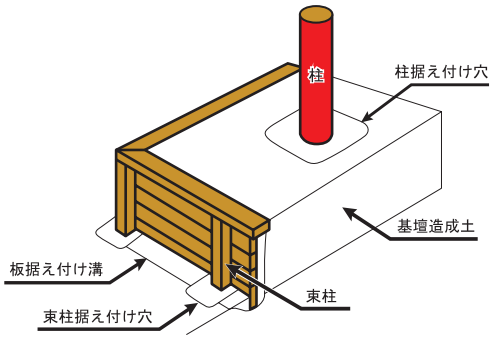
朝堂建物の復原イメージ

新たに見つかった柱穴（南から）

恭仁宮は､聖武天皇が天平 12（740）年から天平 15（743）年にかけて造営した奈良時代の宮都です。

今回の調査は、政治や国家の儀式が行われた朝堂院の南西部に設定した調査区で行われ、昨年度確認した朝堂建物の柱穴が新たに５か所見つかりました。

今回の調査成果により、朝堂建物の構造は、木製基壇を持つ南北５間（約 20 m）×東西６間（約 21 m）の総柱建物である可能性が高いことが明らかになりました。



木製基壇の外装

コーナー展示：中世京都のおもてなし

中世京都を発掘調査すると、多数の土師器皿が土坑から出土することがあります。壊れていないものが多く、1度限りの使用で捨てられたようです。室町時代に日本を訪れた朝鮮王朝の使節が書いた『海東諸国紀』には「人は貧富と関係なく宴会を好み、（中略）飲食には漆器を用い、尊処には土器を用いる。ひとたび用いればすぐ捨てる」と書かれています。大事な宴会には「かわらけ」を使い、1度限りで捨てたというのです。

中世（鎌倉・室町時代）の遺跡で出土する土器には、ご飯やおかずを盛るための椀・皿、煮炊き用の鍋・釜、食べ物を擂るためのすり鉢、水や酒などを溜める甕、酒を注いだり、花を生けるための壺、暖房用の火鉢、茶を沸かすための茶釜、香を焚く香炉などがあります。

『絵師草紙』絵師の宴会の様子：お膳に土師器皿や箸が載っています（国立国会図書館デジタルコレクションより）

当時の人々はどのような土器をどのように使っていたのでしょうか。

―中世の器の種類―

中世の器には土師器・瓦器・瓦質土器・国産陶器・輸入陶磁器などいろいろな焼き物のほか漆器があります。当時の絵巻物には宴会などのおもてなしの場面や台所で宴会や食事の準備をしている場面も描かれています。ここでは室町時代に描かれた『慕帰絵詞』を参考に器を使用している様子を紹介します。

乙訓の土師器皿
（長岡京市下海印寺遺跡出土：参考）

南山城の瓦器の椀・皿
（精華町下馬遺跡出土：参考）

漆器椀
（宮津市難波野遺跡出土）

中国製白磁椀
（京田辺市門田遺跡出土）

中国製青磁皿
（京都市聚楽第跡出土）

朝鮮王朝白磁椀
（京都市平安京跡出土）

『慕帰絵詞』巻２　三井寺南瀧院の台所の様子：僧たちが台所で土師器皿に盛りつけをしています。そばには青磁の鉢や壺、黒漆の鉢などが描かれています。黒漆の鉢にはご飯が大盛りになっています。（国立国会図書館デジタルコレクションより）

『慕帰絵詞』巻２　僧侶の衝重（お膳）には土師器の椀・皿が載っています（国立国会図書館デジタルコレクションより）

※『慕帰絵詞』は親鸞の後継者覚如（1270～1351）の伝記を描いた絵巻です。覚如の没後すぐに描かれました。

『慕帰絵詞』巻２　奈良火鉢にかけた鍋で煮物を作っています。（国立国会図書館デジタルコレクションより）

土師器鍋（京都市聚楽第跡出土）

瓦質土器火鉢：奈良火鉢（京都市聚楽第跡出土）

常滑産壺（京都市平安京跡出土）

―中世都市京都の器―

都である中世都市京都で出土する食器は、土師器皿がもっとも多く、瓦器椀はあまり多くありません。漆器椀が主体であったためと考えられます。調理具には土師器や瓦質土器の鍋や釜、播磨産須恵器のすり鉢があり、貯蔵具には常滑産の甕があります。

京都の土師器皿はロクロを使わずに手づくねで作られています。畿内とその周辺などでは京都産をまねた土師器皿が作られ、京都系土師器皿と呼ばれています。

また、富裕層を中心に中国製や朝鮮半島製の白磁・青磁などの輸入陶磁器が使われていました。

室町時代になると新たに常滑産・備前産・丹波産・信楽産などの陶器のすり鉢、甕、壺が加わります。少量ですが古瀬戸の椀、鉢、おろし皿も使われました。

『慕帰絵詞』巻６　貴族と僧の宴会の様子
（国立国会図書館デジタルコレクションより）

山城の鎌倉時代後半の台所道具（長岡京市勝龍寺城跡出土）

―山城国の器―

山城国の食器は、土師器皿や瓦器の椀・皿が中心で、多量に出土します。土師器皿は手づくねですが、京都産と形は少し異なり底が丸みを帯びています。瓦器は、器の内面と外面を燻（いぶ）した黒い焼き物で、内面にはジグザグ模様やらせん模様があります。北部では楠葉（くずは）型と呼ばれる大阪府枚方市周辺で生産されたものが多く出土しますが、南部では大和型と呼ばれる奈良市周辺で生産されたものが多く出土します。鍋や羽釜は瓦質土器で、山城産のほか河内産や摂津産があります。すり鉢は播磨産須恵器です。甕は土師器が多く、少量ですが常滑産の陶器があります。輸入陶磁器は中国製白磁や青磁がほとんどです。

室町時代になると瓦器椀はなくなります。漆器や木製の椀の普及が背景にあると考えられます。羽釜は大和産に、すり鉢は信楽産や備前産の陶器になり、少量ですが瓦質土器の鉢も出土します。また、新しい様相として古瀬戸の椀、鉢、おろし皿が使われるようになります。

―丹波国の器―

丹波国の食器は、鎌倉時代は土師器皿や瓦器の椀・皿が中心です。土師器皿は、一部で地元産のロクロで作るものも使いますが、城館などでは京都系土師器皿が多量に出土します。瓦器は丹波産を使用しています。鍋や釜は丹波産の瓦質土器です。すり鉢は播磨産須恵器です。壺や甕は丹波産の須恵器や常滑産の陶器などがあります。輸入陶磁器には中国製白磁・青磁の椀・皿などがあり、寺院や城館などで出土する傾向があります。

出雲遺跡出土の 12 ～ 13 世紀の土器

室町時代になると漆器などの木製椀が一般に普及するためか瓦器椀はなくなりますが、土師器皿は引き続き京都系が使われます。壺や甕は丹波産の陶器が主流となり、備前産が少量あります。

―丹後国の器―

丹後国の食器は、鎌倉時代は土師器皿や丹後特有の黒色土器の椀・皿が中心です。土師器皿は地元産のロクロで作るものと京都系の両方があります。大川遺跡では土師器皿をまとめて廃棄した土坑が見つかりました。鍋・釜は瓦質土器を使用しており、すり鉢は播磨産須恵器です。壺や甕は丹波産の須恵器や常滑産や越前産の陶器などがあります。輸入陶磁器には、中国製白磁や青磁があります。また、宮津市難波野遺跡では当時は一般集落にはまだ普及していない漆器が多量に出土しており、付近に在地領主でもある籠（この）神社に関する施設や屋敷があったと考えられています。

大川遺跡出土の 12 ～ 13 世紀の土器

室町時代になると黒色土器はなくなりますが、土師器皿は引き続き使われます。壺や甕などは丹波産の陶器が中心で、備前産や越前産もあります。輸入陶磁器は、中国製白磁・青磁の椀・皿などがあり、少量ですが高麗や朝鮮王朝の青磁・白磁などがあります。

おわりに

以上見てきたように、中世の人々が、ハレの宴会などで使用した土器は、地域によって様々な特色があります。特に、一度しか使っていない数多くの器を一括して廃棄する風習は、全国的に共通しているようです。当時の人々は、この宴会を通して集団の結びつきを強めるために共同の飲食をしたと思われますが、その際に使われる器として京都系土師器皿が一般的に使われたようです。このような風習は、近世になると京都以外では見られなくなりますが、近世以降現在につながるおもてなしの源流は、中世にまで遡るといえるのかもしれません。

展示遺跡位置図

1．石田谷遺跡
2．大川遺跡
3．青野南遺跡
4．余部遺跡
5．出雲遺跡
6．佐伯若宮神社遺跡
7．上京遺跡
8．烏丸御池遺跡
9．御土居跡
10．方広寺旧境内
11．長岡京跡左京三条四坊六町
12．開田古墳群
13．五塚原古墳

14．上植野城跡
15．伊賀寺遺跡
16．勝龍寺城跡
17．史跡大山崎瓦窯跡
18．浄妙寺跡
19．下水主遺跡
20．今里遺跡
21．女谷・荒坂横穴群
22．御毛通２号墳
23．三山木遺跡
24．門田遺跡
25．椋ノ木遺跡
26．井手寺跡
27．史跡恭仁宮跡
28．特別名勝・史跡浄瑠璃寺庭園

第 29 回小さな展覧会　会期：平成 26 年 8 月 16 日～9 月 7 日

編集・発行　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒 617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内 40-3　Tel.075-933-3877　Fax.075-922-1189
ホームページアドレス　http:/www.kyotofu-maibun.or.jp　印刷　三星商事印刷株式会社

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER

発行：2014.8.16